

〔類聚名義抄魚〕鮫 音サメ

鯊 音サメ

鰐 魚音鮫、鯊 一名鮫、鯊

鰐 魚一名鮫、鯊 正

鰐 魚正サメ

〔下學集上〕鮫

鮫皮爲刀鞘、又名淵客、泣淚成珠者也。

鮫刀鞘用之、日本俗所作也、又云梅花皮也。

〔運步色葉集魚〕鮫

鮫同花皮

〔東雅鱗介〕鮫

サメ○中略

梅花皮

〔倭訓栞佐前編十〕さめ 鮫魚をいふ、新撰字鏡に鯊、又鰐などもよめり、鯊延喜式も同じ、狹眼の義也、

體よりは眼の至て細きものなり、出羽の方言さがばふといふ一説に鰐皮の音轉也ともいへり、朝夷の義秀、水練の聞えありて、海中に入て鮫三喉を提げ出し事東鑑に見えたり、志摩國伊雜宮の田殖の神事に、鮫二喉づ、浦口まで來り、又立歸る例年の事也とぞ。○中刀劍の欄鞘などに用ゐるは、本草音義に、鮫魚皮、裝刀欄也と見え、後漢志に以白珠鮫爲劍口之飾といひ、吳都賦の鮫函をさめざやと訓しは、歐陽公が、魚皮裝貼香木鞘といへる者也、吳物志に、背上有甲珠文、堅弦可以飾刀、可以爲鏹と見えたり、西土の刀裝も日本にひとしといひ、今も骨角をおろすにも用ゆ、ねこざめは虎鰐あり、さめは胡沙魚也といへり、倭名鈔に散豆帶あり、壺井氏さめのおびとよめり、鮫珠をいふにや。

〔物類稱呼二〕鮫魚さめ 播州にてのそといふ越前にてつ。の字と云、その故は此魚捕て磯へ上れば、假名のつの字の形に似たりとて、越前の方言につの字となづくとや、大和にてはふかと云、さめと鮫魚とは大に同じくしてすこしく異也、ふかの類多し、或は白ぶか、うばぶか、かせぶか、鰐ぶかもだまさいわり等有、皆さめの類なり、四國及九州にさめの稱なし、すべてふかと呼、又江戸にて一種ぼうざめと云、有下野國宇都宮邊にてはさがぼうとよぶもの也、江戸にて云ほしがめを、西海にてのうそと云、江戸にて玄ゆもくざめと云を、西國にて念佛坊といふ、是土佐の國